令和4年度 特別支援学級支援プロジェクト

義務教育指導課
義務教育個別最適な学び推進担当

趣旨
　市町教育委員会が推薦する自閉症･情緒障害特別支援学級のある中学校等に対し，教育委員会による障害特性に応じた指導に係る研修や特別支援学級への具体的な指導･助言を継続して実施することにより，自閉症･情緒障害特別支援学級の指導の充実を図る。

ステップ1

特別支援学級担任への伴走型支援

◆実態把握（児童生徒の個々の教育的ニーズの把握）
◆児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成
※自立活動　６区分27項目参照
◆作成した個別の指導計画等を基に授業見学・振り返り
◆授業の立案等の支援
※教科学習の中に自立活動の視点

◇特別支援学級（主に自閉症・情緒障害）学級全体への支援
児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす学級づくりへの支援
◇小集団を生かした授業の立案等の支援

●児童生徒の変容の見取り
●個別の指導計画の見直し
（本人との確認）

ステップ2

特別支援学級での授業担当者への伴走型支援

◆対象児童生徒の個別の指導計画等を活用し，児童生徒の個々の教育的ニーズを把握するための支援
◆各教科等の中に児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす授業づくりへの支援
―学習環境・学習内容・学習方法等の支援
―児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす選択肢の設定

◇特別支援学級での各教科等の学習における，小集団を生かした授業立案等の支援

●児童生徒の変容の見取り
●個別の指導計画の見直し
（本人との確認）

ステップ3

通常の学級での授業担当者への伴走型支援

◆対象児童生徒の個別の指導計画等を活用し，児童生徒の個々の教育的ニーズを把握するための支援
◆通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の個々の教育的ニーズを把握するための支援
◆各教科等の中に児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす授業づくりへの支援
―学習環境・学習内容・学習方法等の支援
―児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす選択肢の設定

◇通常の学級全体への支援
児童生徒の個々の教育的ニーズを満たす学級づくりへの支援
◇学校全体で特別支援教育の視点を生かした取組への支援
→個別最適な学びを意識した教育活動への支援

各プロジェクト校の取組

呉市立広中央中学校における取組

生徒の主体性を促す　各教科の学習指導の工夫

環境整備

●個別のスペースの作成！

自席とは別に，個別のスペースを作成した。

気持ちを落ち着かせたいとき，動画視聴時，答え合わせスペース等，授業の目的に応じてスペースを活用できるようにした。

●荷物スペースの構造化！

ロッカーの上に棚を設置し，荷物を整理整頓しやすくした。配付物は棚の中のカゴに配付するなど構造化を図った。

●活動スペースの確保

教室内の不要な物を撤去し，多様な形態の活動ができるよう環境を整えた。

・環境を整え，場の構造化を図ることで，生徒が目的に応じて学習の場を選択することができ，集中して学ぶことにつながった。
・生徒が荷物の整理整頓を意識するようになった。
・多様な形態の授業を仕組めるようになり，学習活動にバリエーションが増えた。

数学科

●学習のパターン化！

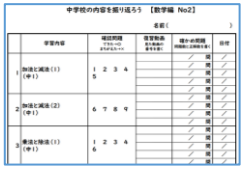
50分の流れを毎回固定することで，生徒が見通しをもって取り組めるようにした。

【工夫】
・導入で生徒の好むゲームを取り入れ，意欲を高める。
・前時の復習を取り入れ定着を図る。
・動画を活用する。

数学の流れ
①数学的ゲーム（ロジ算等）
②復習
③本時の問題
④間違った所の解説動画
⑤確認問題
⑥振り返り

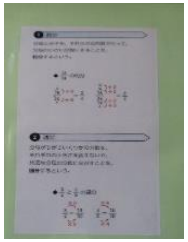
●自立的に学習できるための工夫！

生徒が一人で学習に取り組めるよう，学習計画表を基に自力で取り組める環境を整えた。



【学習計画表】

【解説動画】



【ヒント・答えカード】

・①の活動を楽しむことで，その後の活動にスムーズに入ることができた。
・タブレットを活用する学習スタイルが生徒の実態に合い，一人での学び方が身に付いてきた。また，その分教師は必要な支援を必要な生徒に行うことができた。
・数学の技能が高まった。

外国語科

●目標及び学習内容の焦点化！

英語に苦手意識が強く，授業に参加しにくかった生徒には，行う内容を焦点化し，英語に慣れ親しむことを目標として取り組んだ。

●生徒が意欲的になる導入の工夫！

生徒同士のやり取りや，ゲーム的活動，調べ学習等，参加したくなる導入を工夫した。

●授業の各所に選択肢を！

選択肢を設けて自己決定させることで，主体的に取り組むことをねらった。

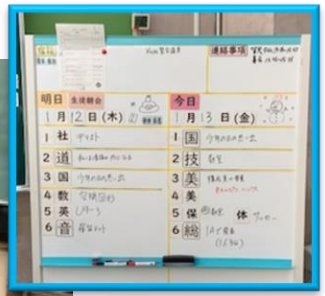
・学習カードの活用
・調べる手段（辞書，教科書，タブレット，翻訳機）
・表現ツール（鉛筆，タブレットペン，タイピング，　音声入力　等）

・実態に応じて目標を焦点化して指導を行うことで，生徒が前向きに外国語の学習に取り組むようになった。
・学び方に選択肢があることで，自分の得意を生かして学習することができ，生徒の主体性の向上が見られた。

竹原市立賀茂川中学校

ステップ 1

今日・明日の時間割



【学習環境の整備】パーテーションの設置／時間割や活動の流れの提示

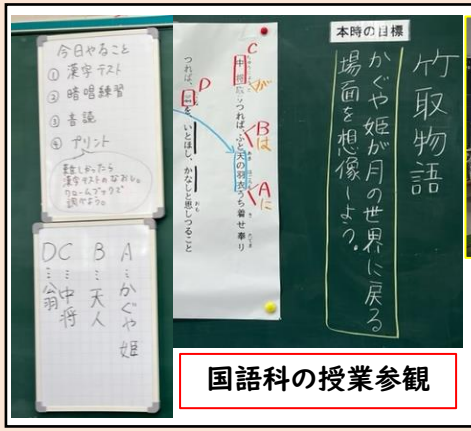
個別課題を整理し，学習計画を立案

1	こんな時，どうする？①	○　生徒自身が，コミュニケーションに係るスキルについて把握し，目標とするスキルを選択・決定する。 ・　標的スキル選定のためのソーシャルスキル自己評定尺度及び社会的スキルのアンケート等参考に，課題を整理する。 ・　（株）LITALICO 情報提供ワークシート“相手の立場に立とう”を活用し，各場面に応じて他者視点に立って考える。 【参考：標的スキル選定のためのソーシャルスキル自己評定尺度（実践！ソーシャルスキル教育　中学校ー対人関係能力を育てる授業の最前線ー／株式会社　図書文化社）】
2	こんな時，どうする？② 【共通の課題】 他者視点に立って考える 【個人の課題】 生徒A 授業中の態度 生徒B 授業中や給食時におならをすること	○　状況に応じたコミュニケーションのうち，個々の課題である場面について，自他者の気持ちや，その場の状況に応じてどう行動すべきかを考える。 【共通】 ・　状況の読み取り →　画像や動画等を提示し，その場の状況の読み取りを行う。 （いつ，どこ，だれが，何をしている，どんな気持ち） 【個人】 ※　生徒自身のなぜ，そのような行動をするか…という気持ちを大切にしたうえで実施する。 ○　生徒A ・　授業中，態度によってどのような気持ちか整理する（既習事項を振り返り，怒りの温度計に自分の気持ちを書き出す） ・　自分の気持ちに応じて，その状況でどう行動すべきか，具体的な言葉（台詞）を考える →　自分で考えることが難しい場合は，選択肢の中から選択することができるよう，選択肢を準備する。 ○　生徒Bの場合 ・　教室内（人がいる時の授業中や給食時間中） 廊下（人がいる時／人がいない時） 図書室（人がいる時／人がいない時） トイレ（人がいる時／人がいない時） 各場面において，他者の気持ちを考え，その状況でどう行動すべきか，具体的な行動を考える。 →　自分で考えることが難しい場合は，選択肢の中から選択することができるよう，選択肢を準備する。

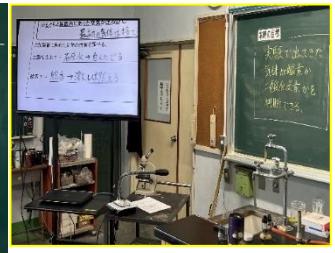
【自立活動】他者視点に立って考える／困難さに応じたICTの活用

“チーム賀茂川”で取り組む!!～各教科における生徒の障害特性を踏まえた指導・支援～

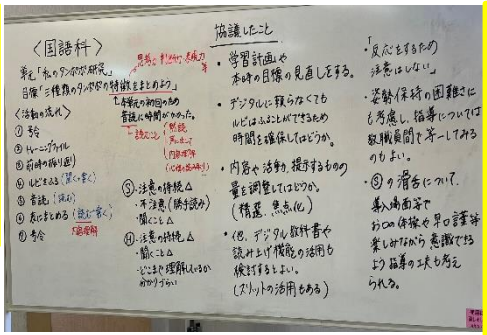
ステップ 2・3

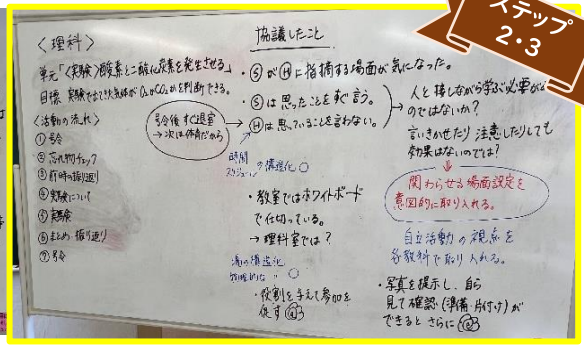


国語科の授業参観



理科の授業参観





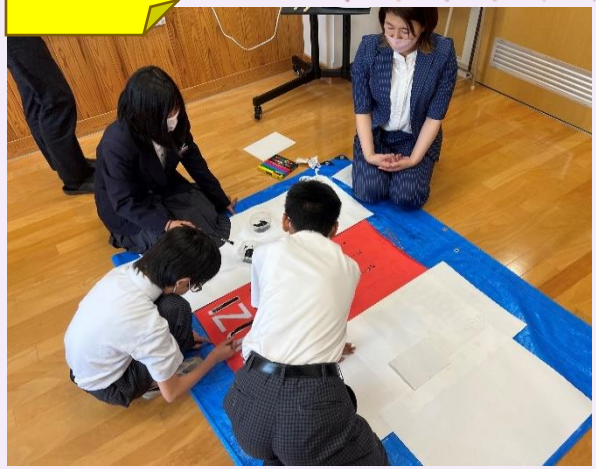
事後協議（本時の目標，活動の流れ，生徒実態を踏まえた気付き等の共有）

【障害特性を踏まえた授業改善】各教科の授業参観及び事後協議の実施

大竹市立小方中学校

ステップⅠ　自立活動の視点を踏まえた授業づくり

自立活動



・生徒間で役割分担をし，学級旗を制作
・日常的によく使われる友達同士の言い回しや，その意味することが分からないときの尋ね方などを，少人数の集団の中で 学習

絵や写真などの視覚的な手掛かりを活用しながら相手の話を聞く

共通課題
“人間関係の形成（4）集団への参加の基礎に関すること”
“コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること”

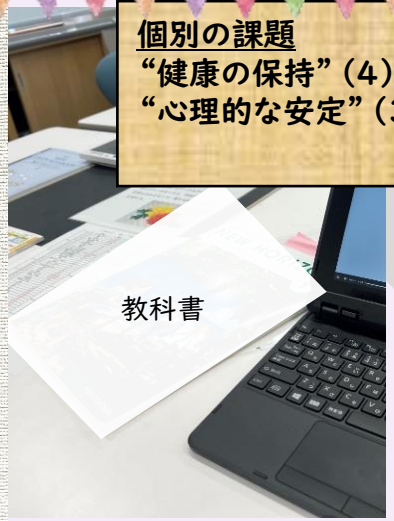
実態把握のために必要な情報を収集
↓
自立活動の区分に即して中心的な課題を整理
↓
指導目標（ねらい）を設定
↓
指導内容を設定

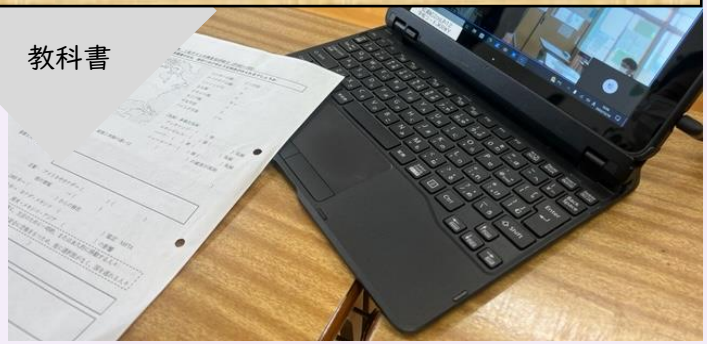
自立活動の授業づくりで重点を置いたプロセス

国語，社会及び英語

“学習の進め方”とICTを活用し，自分に合った方法を習熟するまで練習

個別の課題
“健康の保持”（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
“心理的な安定”（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

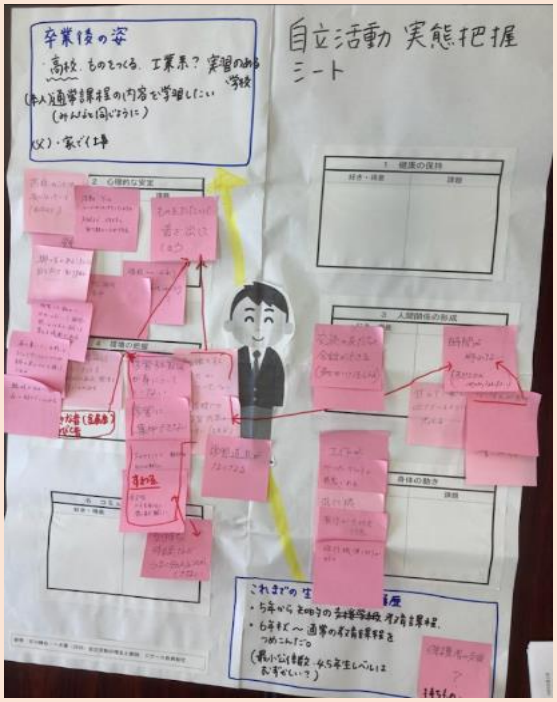




参加が難しい際は，異なる場所からオンラインで参加

東広島市立磯松中学校　My探究「自分のことを知ろう，伝えよう！」

実態把握



時間を守れない
上手くコミュニケーションが図れない
登校できない
書道部で頑張っている
ペーパークラフトが得意
SCHOOL“S”でプログラミングを頑張っている

一人一人実態が違うけど，どう取り組めばいいの？

自立活動

MY探究～「自分のことを知ろう，伝えよう！」～

- 自分の得意なことや苦手なことを知るMY探究を行う。
- 他のプロジェクト校とお互いのことを発表し合う交流会の実施。
- 活動を通して，好きなことに没頭しながら時間を守ることができるようになる，コミュニケーションを図ることの楽しさを味わうなど課題の解決をねらう。

吉田中学校との交流会

- 1回目の交流会で生徒Aが発表して，発表のイメージをもつ。
- 自宅やSCHOOL“S”からの参加者を含め，全員が参加できた。
- 多様な実態に応じる自立活動の実施の仕方のイメージが掴めた！

生徒A
1回目に発表したため
オンラインサポート役に

生徒E　自宅より参観

文化祭では、書道パフォーマンスをやりました。

生徒B「書道」

遠くまで飛ばす工夫

①空気抵抗
タイヤを付けない
本当の飛行機も
飛んでいる時は
タイヤをしまって
いる

生徒C「ペーパークラフト」

SCHOOL“S”より参加

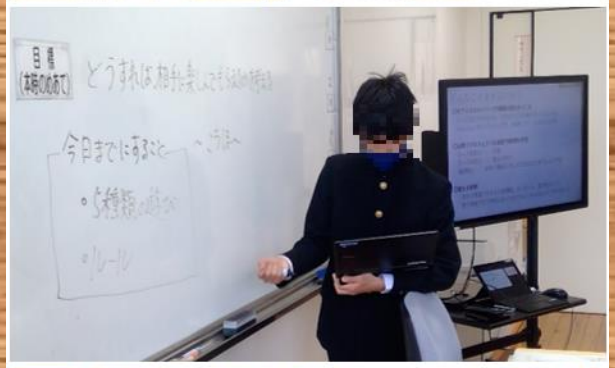
生徒D「プログラミング」

廿日市市立大野学園

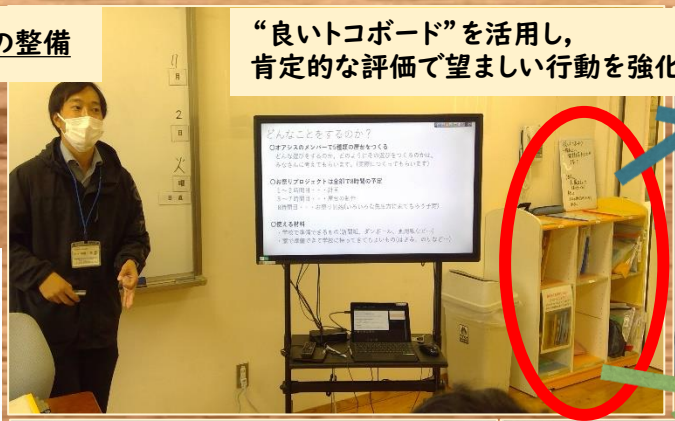
学級及び学園の取組～障害特性に応じた指導・支援の工夫～

Step1
自立活動

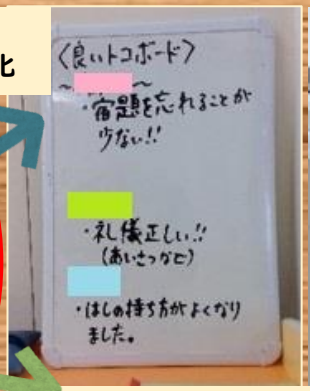
“お祭りプロジェクト”を計画・実施
「どうすれば相手に楽しんでもらえるかを考える」（人間関係の形成・コミュニケーション）

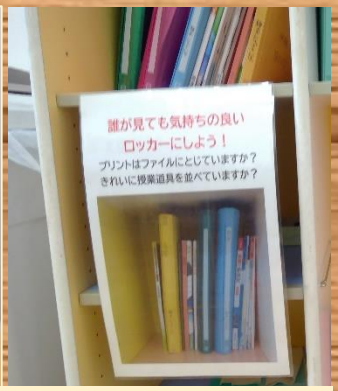


学習環境の整備

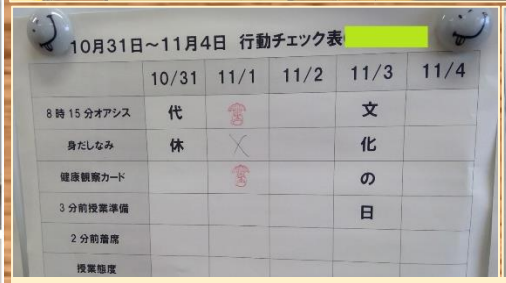


“良いトコボード”を活用し，肯定的な評価で望ましい行動を強化



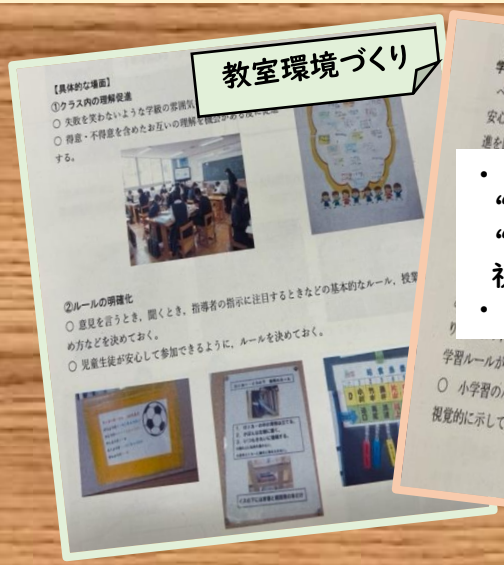


生徒自ら確認し行動できるよう，写真等を示す

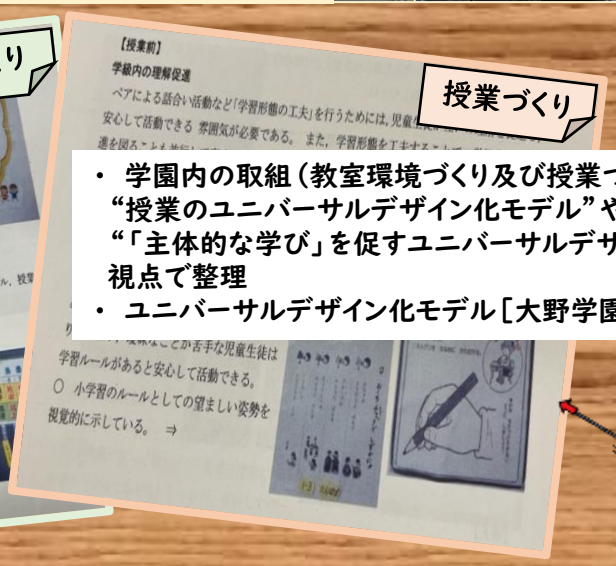


“行動チェック表”や“一日のスケジュール”の作成・活用

教室環境づくり



授業づくり



Step3
組織的な取組

- 学園内の取組（教室環境づくり及び授業づくり）を“授業のユニバーサルデザイン化モデル”や“「主体的な学び」を促すユニバーサルデザインの授業モデル”の視点で整理
- ユニバーサルデザイン化モデル［大野学園版］を作成

府中町立府中中学校における取組

チームで取り組む　生徒の特性を踏まえた指導・支援

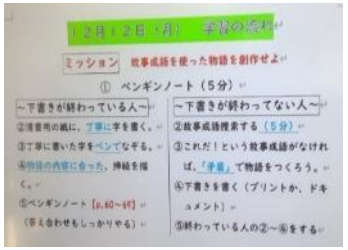
自立活動

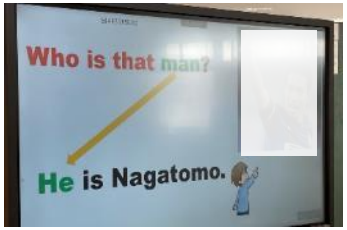
「授業中の発言のルールについて考えよう」
①日頃の授業中の様子を動画で視聴し，課題を確認する。
②どうして発言に気を付ける必要があるのか考える。
③言われて嬉しい言葉，悲しい言葉を出し合う。
④今後の授業への参加の仕方について振り返る。

これまでの経験等も踏まえて聞くことで，生徒理解にもつながった。

各教科（社会・国語・外国語）

見通し・時間の構造化	視覚化	板書・ワークシートの構造化	デジタル機器の活用	目的に応じた多様な学習形態





【生徒】
・上記のような特性を踏まえた手立てを授業に盛り込むことで，学習に意欲的に参加する生徒が増え，学習の理解度が高まった。

【学校】
・実践や協議をチームとして繰り返し行うことで，障害特性の理解が深まり，教職員が有効な手立てを各授業で実践できるようになった。

海田町立海田西中学校

目標 本人の希望の進路の実現を目指した学習支援

背景
・自閉症・情緒障害特別支援学級（ひまわりB）の生徒の進路に関して不安を持っている保護者が多い。
・療育手帳が無く，特別支援学校への進学が困難な生徒に対して適切な進路を保障するにはどうしたらよいか学校としても悩んでいる。

取組 自己理解の促進・特性に対応した学習が実施できるよう伴走支援

学習の苦手な生徒への英語授業支援

L（聞き取る力）

●英語の4技能の中で得意とする生徒が多い。苦手な生徒にはデジタル教科書の本文再生スピードを0.75倍速等に調整して聞き取りを行う。→【スモールステップ化】
●文章理解につながるキーワードを抜き出し，繰り返し聞いてから本文を聞いてみる。→【焦点化】
●単語リストに読める，言える単語のチェック→【視覚化】

R（読み取る力）

●本文内容理解に関しては，詳細に理解できる～概略が理解できている状態まで生徒の状況に合わせたゴールを設定する。→【スモールステップ化】
●本文の聞き取りを行い，デジタル教科書の動画を活用して内容の理解をはかる。→【視覚化】
●ばらばらに提示された絵をストーリー通りに並べ替えることで理解の確認を行う。

W（書く力）

●ターゲットセンテンスのみに絞り→【焦点化】選択肢や並べ替えができるよう，単語の提示を行う。
●提示する日本語も英語の語順に並べ替えて示す。→【スモールステップ化】
●ターゲットセンテンスの単語をカードを使って並べ替え，繰り返し取り組む。→【焦点化→反復】

S（話す力）

●正確さよりも話そうとする姿勢を評価。質問に対して単語でも表現したことを即時評価する。→【スモールステップ化】

自立活動

攻撃型コミュニケーションの生徒の課題
・　思い通りにならない時に，攻撃的なしゃべり方になってしまう。

受け身型コミュニケーションの生徒の課題
・　友達との交友関係でうまくいかない時に「もういい」と問題解決を拒み受け身型のコミュニケーションをしてしまう。

この課題解決に向けて担当の先生の実施されたプラン

コミュニケーションを３タイプに分類
①受け身型・・ウーさん
②攻撃型・・コウさん
③自己主張型・・ジジさん
ジジさんは自分の言いたいことを（言い）
人の話を（聞く）
①～③を先生方が演技で再現したビデオを見て考える。→【視覚化】
・　友達になりたいのは誰？→話し合い
→【共有化】
・　やり取りの中で，攻撃的な発言が出ることもあるが，あえて対応しない。
→【刺激量の調整】

熊野町立熊野東中学校における取組

望ましい人間関係の形成を目指す自立活動の実践

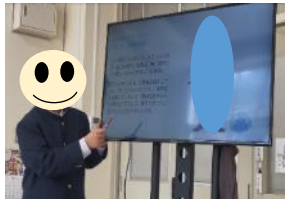
生徒４人の困難さを把握するため，自立活動の６区分27項目を基に，実態を整理した。

1．健康の保持
2．心理的な安定
3．人間関係の形成
4．環境の把握
5．身体の動き
6．コミュニケーション

自然と関わりが生まれる活動を仕組む中で，望ましい人間関係の形成を目指そう！

「自分の好きな物を紹介しよう。」

自分の好きな物をスライド等にまとめ，生徒や先生の前で紹介し合うというプロジェクト。



○生徒の意欲が高まり，授業への参加が促された。人前で自信をもってプレゼンができた。
○自然と相手に質問したり，授業後も生徒同士の関わりを生み出したりすることができた。
●関わりが増える中でトラブルになることもあった。

※これまでの取組を通して明確になった各自の課題の改善に向けて個別の活動に取り組むこととした。
（例）
・他者の感情や行動の意図の理解
・自己の特性理解と行動の調整
・集団への参加
など

実態把握	1学期 ウメジュースをプレゼントしよう。	見直し	2学期 自分の好きな物を紹介しよう。	見直し	3学期

「ウメジュースをプレゼントしよう。」

校庭にある梅の木にできる実を収穫し，ウメジュースを作成。先生方にプレゼントするというプロジェクト。

○収穫→調理→プレゼントの過程の中で多くの生徒同士，生徒と教員の関りを生み出すことができ，関わる楽しさや喜びを感じていた。
●欠席が多かったり，授業に前向きに参加しにくかったりする生徒への支援を考える必要がある。

成果

・相手のことが知れたことで，友達同士の関わりが増えた。
・関わる場を設定し，良い関わりを強化していくことで，他者意識をもって人への伝え方に配慮できるようになってきた。
・トラブルが起こった時も，人を許せるようになった。
・友達との距離感を考えて生活するようになった。

今後に向けて

・自立活動で養ってきた力を交流及び共同学習の場で生かせるよう教科の教諭と連携する。
・全ての教職員の特別支援教育に対する理解を向上させる。

江田島市立江田島中学校の取組

生活上の困難さの改善・克服を目指した自立活動の単元開発

困難さ

	身体の動き	人間関係の形成
Aさん	体育の授業が苦手。人に合わせて行進ができない等の協調運動に課題がある。そのため体育の交流に行きたがらない。	こだわりが強く，自分の考えを曲げられない。他者の気持ちを読み取りにくく，気持ちが多様であるということが理解できない。
Bさん	家庭科の裁縫等，微細運動が苦手。	自分本位であり，思ったことをそのまま発言してトラブルになる。

単元及び一時間の構成

身体の動き　10分

- コグトレ棒
- 新聞紙ちぎり
- お手玉　　等

人間関係の形成　35分

- この人はどんな気持ち
- この後どうなる
- こんな時どうする
- 違った考え方をしよう
- 自分たちの力で解決してみよう

振り返り　5分

- その時間に学んだことを振り返り般化を図る

活動の実際

①人の感情について確認
・表情イラストを基にどんな気持ちの読み取りを行う。

②場面絵から状況の把握
・ある生徒が登校中に忘れ物に気付いた，という場面

③対応方法を考える
・生徒の気持ちを想像する。
・どう対応するのがより良いか考える。

④対応方法を交流する
・考えた対応を交流し，より良い方法を考える。

成果

・導入に生徒が取り組みたくなるような活動を入れることで，授業に主体的に取り組むことが増えた。
・相手の気持ちを考える時間を設定することで，2人の関りが増え，トラブルも減少した。交流に行けるようになった。
・教師の自立活動への理解が深まり，ねらいをもって授業できるようになった。

坂町立横浜小学校の取組

- 対人場面における思考力・判断力・表現力を高める指導

自立活動

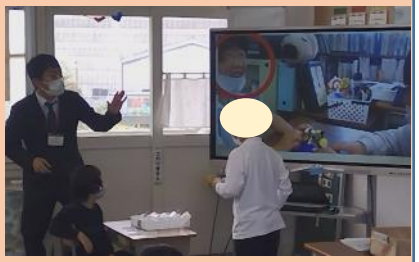
習得

【レベル1】場面・状況の読み取り

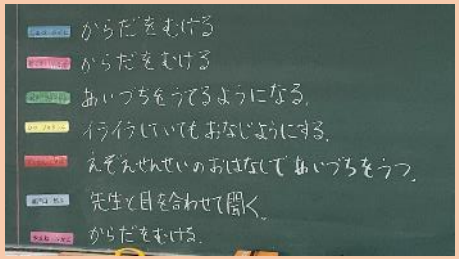
児童の生活場面の動画から
【いつ】
【誰が】
【何をしている】
を読み取らせる。

【レベル2】人の気持ちの読み取り

動画から
【顔の表情】
【声色】
【動作】　　など
を基に，どんな気持ちか考える。



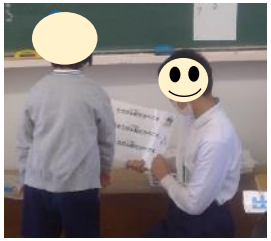
【レベル3】行動を振り返り＆目標設定＆実践



特別活動・生活単元学習

活用

【特別活動】自分の意見を表示できる工夫



【特別活動】相手のことを意識させる工夫

【生活単元学習】生活に即した活動の中で実践

成果

・児童全員が意見を詳しく伝えられるようになった。　　・相手の状況を見て，思いやる言動が増えた。

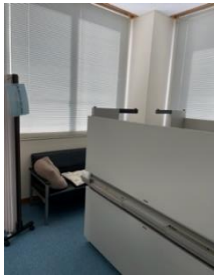
・自立活動で行ったことが，他の教科や生活場面でもできるようになってきた。

大崎上島町立大崎上島中学校

自閉症・情緒障害特別支援学級（SSB）特色

・在籍生徒4名それぞれのニーズを満たすことが可能な教室レイアウト
・学年ごとに対応できる教職員時間割作成

→きめ細やかな対応が可能な校内支援体制の仕組み



学校の特色を生かしてさらに進化をめざしたポイント

①生徒一人一人の実態把握
②職員全員の発達障害理解

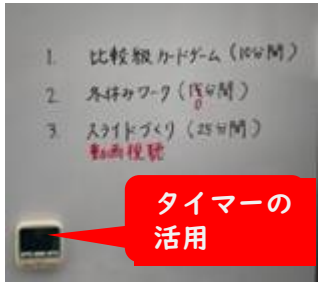
・氷山モデルシートを使ってのケース会議
（１）課題となっている行動
（２）生徒の特性　➡<u>発達障害理解研修</u>
（３）環境・状況整理
（４）行動支援計画（例）

・現時点での目標確認「授業の時間は離席せずに活動することができる」
・見通し・パターン化　※「構造化」を取り入れる
・対話を通して当該生徒の思いを聞き取り，合意形成を図ってルールを設定する。
・この時間は誰とどこで何に取り組むか最低限のルールを作り，やらない場合もどうするか決めておく。視覚的にも提示できるようにしておく。
・答えのない課題（美術の作品作成等）には一緒に取り組むが指示（やりなさい，こうしなさい等）はしない。
・なぜできないのか，なぜ面白くないのか思いを引き出しつつ一緒に考える。「安心感」の醸造

行動上の課題の大きい生徒に関する共通対応理解モデル

③生徒の実態に合わせた支援プランの作成

（１）登校不安のある生徒への支援プラン



提案
→選択・相談
→実施
→振り返り

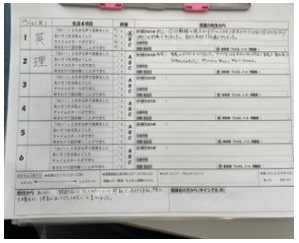
自己決定・相談する場面の設定

（２）集中が続かない生徒への支援プラン

・ルールの確認
・ルールが守れない時の確認
・特性に合わせた指示の仕方
・行動できた時の即時評価・評価方法
・授業開始時に視覚的な情報提供

生徒の実態に合わせた学びの方法や内容の調整

④情報共有



授業で実施した内容・振り返りを先生が記入

今日の生徒の状況が分かり，話しかける内容や，取り組みについての参考にできる

生徒が変容を見せていることや興味を見せたこと等の共通理解

安芸高田市立吉田中学校

学校が育みたい視点

●障害特性等の理解
●児童生徒のニーズに合わせた学びの設定

STEP 1

A➡P➡D➡C➡Aサイクルに合わせて企画した自立活動の企画

A 実態把握

＜一人一人のニーズと目標の確認＞
・発表のルールを確認
「発表したいときには手を挙げて指名されてから発表する発表している人がいる間は話を聞く」➡掲示して示す【視覚化】
・困った時に，先生に合図を出すことができる➡挙手で先生に伝える
・振り返り等，プリントに記入の際にICTを使って入力する方法も準備
➡自分でやれる方法を選択する【自己選択・自己決定】
・登校が難しい生徒はオンラインで参加する【選択肢の設定】

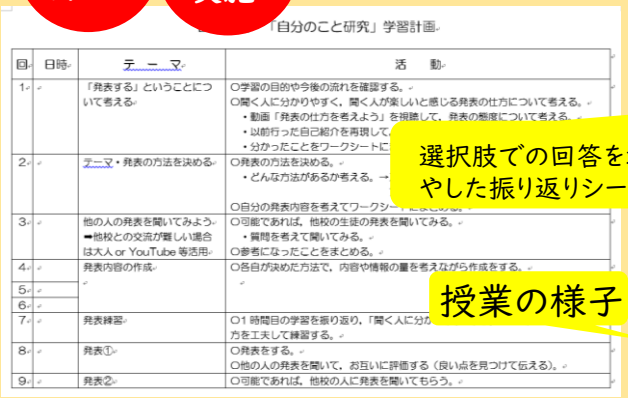
＜授業計画＞
・全９回の企画
・発表の準備ができたら，他校とも交流会を企画

P 計画　D 実施

＜活動を通して育てたい力＞
●他者視点の育成
●人の話を聞く時の決まり・話すときの決まりを守る
●自分の事について考える

＜今後に向けて＞
・オンラインの在り方➡参加感・存在承認
・選択肢を増やす
➡ICTの活用の促進
・自己理解の推進
➡自分にあった適切な選択・援助希求スキルの獲得

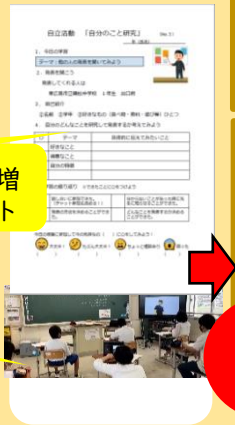
A 改善



「自分のこと研究」学習計画

回	日時	テーマ	活動
1		「発表する」ということについて考える	○学習の目的や今後の流れを確認する。 ○聞く人に分かりやすく，聞く人が楽しいと感じる発表の仕方について考える。 ・動画「発表の仕方を考えよう」を視聴して，発表の態度について考える。 ・以前行った自己紹介を再現して ・分かったことをワークシートに
2		テーマ・発表の方法を決める	○発表の方法を決める。 ・どんな方法があるか考える。→ ○自分の発表内容を考えてワーク
3		他の人の発表を聞いてみよう ➡他校との交流が難しい場合は大人 or YouTube 等活用	○可能であれば，他校の生徒の発表を聞いてみる。 ・質問を考えて聞いてみる。 ○参考になったことをまとめる。
4		発表内容の作成	○各自が決めた方法で，内容や情報の量を考えながら作成をする。
5			
6			
7		発表練習	○1 時間目の学習を振り返り，「聞く人に分か 方を工夫して練習する。
8		発表①	○発表をする。 ○他の人の発表を聞いて，お互いに評価する（良い点を見つけて伝える）。
9		発表②	○可能であれば，他校の人に発表を聞いてもらう。

選択肢での回答を増やした振り返りシート



授業の様子

＜振り返り＞
・発言ルールを意識していた
・ICTを活用すると集中する時間が増えた
・オンライン参加がなかった

C 評価

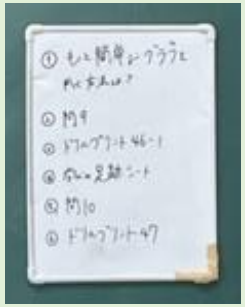
STEP 2

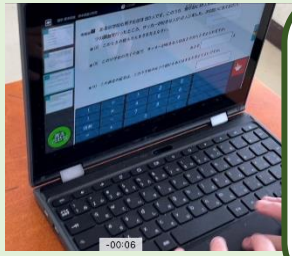
自閉症・情緒障害特別支援学級（もみじ学級）
➡学級担当者以外の授業者への支援
➡①授業見学
②授業UDの視点での振り返り
③今後の具体的な手立て

例）数学

数学に関心があり，自分のペースで取り組むことができる生徒

➡各学年ごとに取り組む課題を掲示
➡自分のペースで進む
➡困った時に挙手・相談





興味・関心の低い活動には集中が続かず離席が目立つ生徒

➡得意のICTを活用
➡他の生徒が課題に取り組む間，個別支援の時間が確保される

STEP 3

通常の学級及びすべての教員
➡①授業見学
②授業UDの好事例探し
③教職員共有ホルダーでの閲覧
➡発達障害理解研修（２０２２年６月実施）

安芸太田町立安芸太田中学校

＜プロジェクトへの取組の視点＞

- 発達障害理解の推進
- 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用
- 生徒の支援ニーズに合わせた授業内容の設定
- 校内情報共有

発達障害理解研修（全職員）

問題解決型ケース会議

（東京学芸大学　馬場先生の提案されているものを参考に実施）

①課題
②強み
③背景
④目指す具体的な姿
⑤具体的な支援方法
⑥振り返りの期日

→ホワイトボードに記入・会議後に写真で記録

各学級で見られる生徒の課題

・学習面の課題
・相手を傷つける言い方
・怒りのコントロール

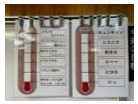
・コミュニケーション課題
・援助希求の課題
・登校への不安

STEP1

自立活動

・身辺自立
→朝のルーティーンの確認
→終わった活動のカードを裏返すと大好きな魚になる

・アンガーマネジメント
→感情に名前をつける
→感情の種類と程度を知る
→怒りの温度計
→怒りの度数によってどう行動するか事前に決めて，生徒と確認しておく



STEP2

各教科での支援

●デジタル教科書（ICT）の活用

●教科の内容と好きな活動の選択肢の設定

●本人の特性に合わせた内容や難易度，手立てなど検討

●毎回の活動を可能なところをルーティーン化し，目で見て活用できる資料を手元に置く

数学での絵カードの活用

登校支援

・ケース会議で支援の手立てについて検討
→目標：担当の先生と提示された活動の中（二つまたは三つ）から一つ選んで活動することができる
→選択肢の提示：好きな活動の中から時間を設定して提示する
→活動後の下校時間と下校方法の提示
※登校時の活動に見通しを持たせる

STEP1

校内支援会議　ケース会議

①登校・学習支援
・選択肢の提供
→学びの選択肢の提供　自己選択・自己決定

②生活支援
・課題の提出
→時間を決めて学校で課題に取り組む

③コミュニケーション支援
・自分理解・他者理解
→SSWと定期的に面談の時間を持ち，SSTを実施

STEP3

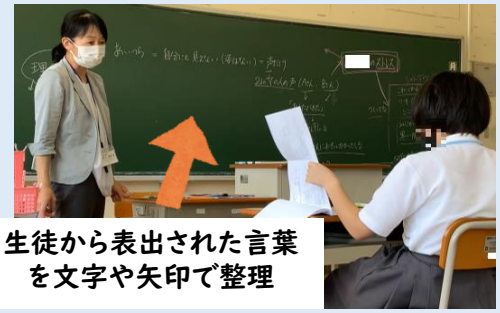
●校内支援会議➡校内の課題のある生徒について同様の方法で検討・支援プランの作成
●特別支援学級生徒理解➡中学校区の小学校の特支Co.も研修や会議に参加することで，各小学校の児童理解へ

北広島町立大朝中学校

1学期
自閉症・情緒障害特別支援学級における
障害特性に対する指導及び支援（ステップ1）

【生徒から表出された行動】
- 授業中「お腹が痛い」，「頭が痛い」と急に言い始める。
- 周りの人には見えない“敵”と戦う。

【行動に対する対応】
① 保健室で休む。
② 教室内に設置したパーテーションの中で休む。
　残り時間全て→時間を決めて
③ 自分の机や椅子で時間を決めて休む。
④ 生徒から表出された行動の原因（背景）を指導者と一緒に考え，対応策を検討する。



生徒から表出された言葉を文字や矢印で整理

教室内に設置

2学期
自閉症・情緒障害特別支援学級における授業づくり（ステップ2）

○ 国語，社会，数学，理科，英語の授業参観及び指導・助言
↓
○ 知的障害がある生徒への指導・支援について検討
- 個別の指導計画の見直し
  〈短期目標〉発達段階に応じてスモールステップ化
  （焦点化，基礎的・基本的な学習内容の重視　等）
  〈手立て〉　理解の程度に応じて指示や教材・教具を提示
  （動作化や視覚化の活用，活動場面の設定　等）
  〈評価〉　短期目標・具体的な手立てと評価を対応させる
- 自立活動の視点を踏まえた授業改善

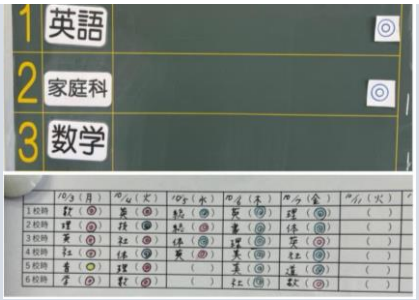
↓
○ 見直しをした個別の指導計画を生徒本人及び保護者へ説明

対象生徒の障害による学習上又は生活上の困難さについて整理

【心理的な安定】
- 情緒の安定に関すること
- 状況の理解と変化への対応に関すること

【人間関係の形成】
- 自己の理解と行動の調整に関すること

生徒と指導者の共通の評価ツール



3学期　通常の学級に在籍する生徒への指導及び支援（ステップ3）

〈1年生　英語〉スライドの使用
- 書く活動は個人差が出る
  → クリック操作のため，個人差が出にくい
  → 授業がスムーズに進行する

〈2年生　数学〉カメラの使用
- 黒板の文字が認識できても短期記憶の弱さから，ノートへの記入に時間がかかる
  → 生徒が自分で板書をカメラで撮影
  → 写真（板書）へ生徒自らポイントを書き込む

〈3年生　技術・家庭〉MetaMojiの使用
- 黒板のどこを見ればよいか分からない
  → 指導者がPCで見て欲しい箇所に丸印を付ける
  → 生徒は手元にある自分のPCで確認
- 課題ができず，一人で困っている
  → 指導者が全員の進度を一覧で把握でき，PC上でヒントなどの書き込みができる
- テスト勉強をする際，苦手な箇所が分からない
  → 正解について，1回目は赤，2回目は黄，3回目は青など，丸印などを色分けして評価をする
  → 丸印の色を見て，自分の苦手な箇所を重点的に学習

学習上の困難さへの手立てとしてChrome book（PC）を活用

特別な支援が必要な生徒について，個別の指導計画を作成していく――

三原市立第五中学校

自立活動及び国語科における授業改善
～APDCAサイクルに基づいた授業づくり～

Assessment（実態把握）

児童生徒	児童生徒の困難さ	6区分27項目との関連	15歳までに児童生徒につけたい力
生徒A	○他者との関わりをもちたがらず，外に出ない。 ○昼夜逆転することもあり，生活のリズムが不安定。	1(1)，1(5)	自己調整能力
生徒B	○やりたいことを優先し，就寝時刻が遅くなる。 ○感情をコントロールすることが難しい。	1(1)，2(1)	アンガーマネジメント
生徒C	○周囲のことに気が散りやすい。 ○相手の気持ちや状況を考えた言動ができにくい。 ○自分の思いを的確に表現することが難しい。	1(1)，3(2)，6(2)	リフレーミング 自分の思いを適切に表現する 他者感情の理解
生徒D	○不安や悩みが家庭で爆発する。 ○できないことが多く，学習への意欲や関心が低い。 ○文字を書くことや細かい作業が苦手。	2(1)，2(3)，5(5)	不安を発散する レジリエンスを高める
生徒E	○自己について客観的に認識することが難しい。 ○自分の気持ちを的確に表現することが難しい。	1(4)，6(3)	リフレーミング 自己表現
生徒F	○周囲の変化や叱られる等の刺激に敏感なところがある。	2(1)	メタ認知
生徒G	○周囲に気が散りやすく，行動に時間がかかる。 ○自分の気持ちや考えを的確に言葉にできにくい。	1(1)，6(3)	語彙を増やす 整理整頓

Plan（計画）

題材のねらい

ゲームや体験を通して，他者意識をもつとともに，勤労に対するイメージをもつことができる。

児童生徒	個人の目標	個に対する手立て
生徒A	級友とともに活動できる。	生徒同士でつながりをもたせる。
生徒B	相手に配慮した優しい声かけができる。	自分の言動を振り返る機会を与える。
生徒C	他人のためを考えた言動ができる。	自己有用感がもてるような場を設定する。
生徒D	自分でもできると自覚し，自信を持つ。	できることから取り組ませ，成功体験を積ませる。
生徒E	自分の気持ちや意見を伝えることができる。	自分の気持ちを表現しやすいように話型を示す。
生徒F	自分のことにつなげて考えることができる。	自分のことと関連させて振り返りをさせる。
生徒G	自分がするべきことをやり切ることができる。	スモールステップで取り組ませ，達成感を与える。

外部連携先

学校近辺の地域

学習の流れ（概要）

友達との仲を深め，他人のために動ける人になる。

時間	学習展開
1	級友について知る
2	級友との関係を深める
3	級友との関係を深める
4	級友との関係を深める
5	地域のためにできることを話し合う
6	実践・振り返り
7	地域のために他にできることを考える（3学期に継続）

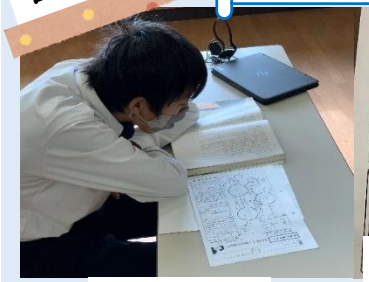
Action（改善）

今後に向けて

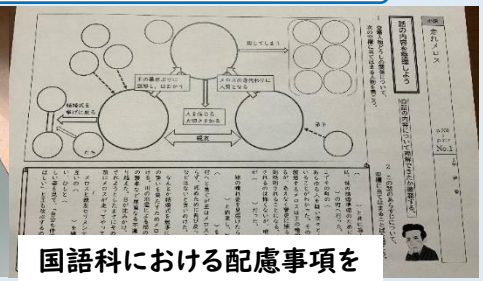
- 学級の中では大体できるようになってきた他者意識。これを更に外に発信していくために,3学期は職業体験をさせたいと考えている。
- 清掃活動ではあまり得られなかった「勤労観」やそれに伴う「充実感」を味わうことのできる機会を設定し,社会でも他者意識をもって行動できるようにし,他人のために動ける人に成長してほしい。

自立活動の視点を各教科の授業へ
～心情の読み取り～

国語科



ICTの活用



国語科における配慮事項を踏まえたワークシート

Do（実施）

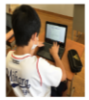
地域清掃

原子モデルカードゲーム

他の人が当てられたのに，自分が答えを言ってしまう場面について考える。

Q1. 授業中，他の人が当てられているとき，自分が先に答えを言ってしまうことはある？

A1. ・はい(4人)
・いいえ(1人)



Q2. 授業中，他の人が当てられたとき，どうしたらいい？

自分と他者の気持ちの違いについて学ぶSST

Check（評価）

児童生徒の変容

- 級友のことを嫌だと感じる生徒がいたが，されて嫌なことを公表し合ったり,好きなことを共有し合ったりすることで,互いのことを 知るきっかけを作ることができた。
- 全員参加のゲームや互いにクイズを出し合ったりする活動も時間はかかったが,あらゆる場面で「相手」を意識した言動が見られるようになってきた。
- 地域清掃は,生徒にとって楽しい活動であるとともに,集めたゴミを見て達成感を感じる生徒もいた。

尾道市立高西中学校

チーム高西で 個別最適な学びを目指して

ステップ1

自立活動

1-2(第1学年)では,それぞれが抱えているコミュニケーションにかかる課題を改善・克服するため,話し合い活動を実施。1-3(第2・3学年)では,他者に自分の考えを伝える方法を身に付けるため,好きな本をICTを活用して紹介する活動を実施。

話合い活動

好きな本紹介

1-2(第1学年)における各教科の授業

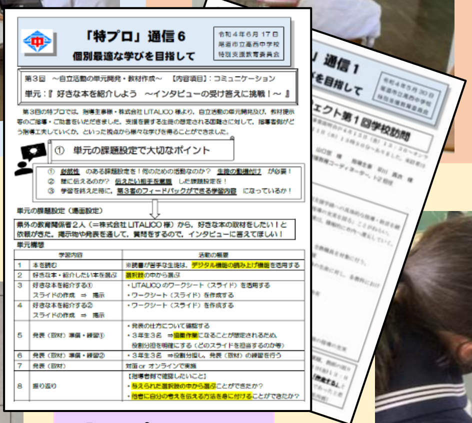
授業中の生徒の様子からつまずきの原因・背景を分析し,「授業UD」,「構造化」,「環境整備」等の特別支援教育の視点で手立てを考え,授業改善を実施。特別支援学校のセンター的機能を活用し,継続的な伴走支援を実現。

ステップ2

数学科

国語科

理 科



「特プロ」通信6

個別最適な学びを目指して

令和4年6月17日
尾道市立高西中学校
特別支援教育委員会

第3回 ～自立活動の単元開発・教材作成～ 【内容項目】:コミュニケーション

単元:『好きな本を紹介しよう ～インタビューの受け答えに挑戦!～』

第3回の特プロでは、指導主事様・株式会社LITALICO様より、自立活動の単元開発及び、教材提示等のご指導・ご助言をいただきました。支援を要する生徒の想定される困難さに対して、指導者側がどう指導工夫していくか、といった視点から様々な学びを得ることができました。

① 単元の課題設定で大切なポイント

① 必然性 のある課題設定を!何のための活動なのか? 生徒の動機付け が必要!
② 誰に伝えるのか? 伝えたい相手を意識 した課題設定を!
③ 学習を終えた時に、第3者のフィードバックができる学習内容 になっているか!

単元の課題設定(場面設定)

県外の教育関係者2人(=株式会社LITALICO様)から、好きな本の取材をしたい!と依頼がきた。掲示物や発表を通して、質問をするので、インタビューに答えてほしい!

単元構想

	学習内容	活動の概要
1	本を読む	※読書が苦手な生徒は、デジタル機能の読み上げ機能を活用する
2	好きな本・紹介したい本を選ぶ	選択肢の中から選ぶ
3	好きな本を紹介する① スライドの作成 ⇒ 掲示	・LITALICOのワークシート(スライド)を活用する ・ワークシート(スライド)を作成する
4	好きな本を紹介する② スライドの作成 ⇒ 掲示	・ワークシート(スライド)を作成する
5	発表(取材)準備・練習①	・発表の仕方について確認する ・3年生3名 ⇒協働作業になることが想定されるため、役割分担を明確にする(どのスライドを担当するのか等)
6	発表(取材)準備・練習②	・3年生3名 ⇒役割分担し、発表(取材)の練習を行う
7	発表(取材)	対面 or オンラインで実施
8	振り返り	【指導者側で確認したいこと】 ・与えられた選択肢の中から選ぶことができたか? ・他者に自分の考えを伝える方法を身に付けることができたか?

「特プロ」通信

プロジェクトを通して学んだことを「特プロ」通信にまとめて,校内で情報共有。

ステップ3

らしんばん
学びの羅針盤
～学び方もあなたらしく～

	学習内容		実施日	必ずやること		ヒント		+ONE			備考欄
	章	本時のゴール		理科ノート(左)	理科ノート(右)またはプリント	教科書	動画	アクティブコーナー	チャレンジプリント	eboard	
前半戦	インストラクション～学習のねらいを共有し見通しをもつことができる～			「学びの羅針盤」冊子を参考にしましょう							
	1章 身近な大地	大地の変化にはどのようなものがあるか	／ ( ) ( )時間目	P32	プー①	P68~71					
		大地にはどんな違いがあるだろうか	／ ( ) ( )時間目		プー②	P72~73					
	2章 ゆれる大地	地震はどのように発生しどのように伝わるだろうか	／ ( ) ( )時間目	P34	プー③	P75~77	○		57		
			／ ( ) ( )時間目	P36	プー④	P78~79	○		58		
			／ ( ) ( )時間目	P38·39		P75~79					
		震度とマグニチュードの違いはなんだろうか	／ ( ) ( )時間目	P40	プー⑤	P80~85	○		59		
		日本列島で地震が起こるしくみはなんだろうか	／ ( ) ( )時間目	P40	プー⑥	P80~85	○		60·61		
	確認テスト(1·2章)		／ ( ) ( )時間目	確認テストについては別紙の「確認テストについて」を参考にしましょう							
	前半戦:パフォーマンス課題		地震大国日本は今後についてそれぞれの視点でレポートにまとめよう! テスト日に提出								
	学年末試験		2月〇日(〇)〇校時 ※1章·2章·確認テストまで範囲に入ります								

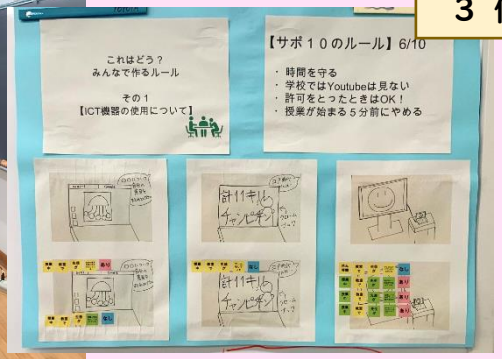
単元内自由進度学習(理科)

「本当の意味で子供に委ねる授業を行いたい!」という想いから単元内自由進度学習を実施。「学びの羅針盤」(単元計画表)を子供たちと共有し,いつするのか,何を使って学びを進めるのか,困った時にどのように解決するのか,必ずすることが終わったら何をするのかなど,「主体的に学ぶ姿=自己調整する姿」と整理して実践。

府中市立府中学園の取組

Mission

1 特別支援学級において，障害特性に応じた学習環境を整える。
2 構造化の視点を取り入れた授業づくりを行う。
3 個別の教育支援計画等を効果的に校内で活用する。

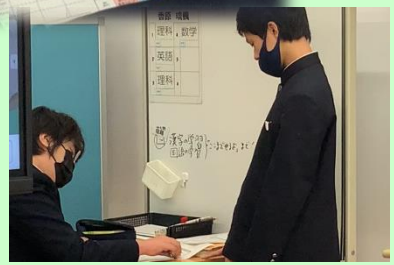


学習上又は生活上の困難さを改善・克服するための授業づくり

- 他者視点に立って考えたり，コミュニケーションを苦手とする生徒に対し，ソーシャルシンキングの考え方を取り入れた学習を実施。
- 読み書きの困難さによる不安や負担を軽減・解消するため，ICT活用に係るスキルを習得できるよう題材を設定。

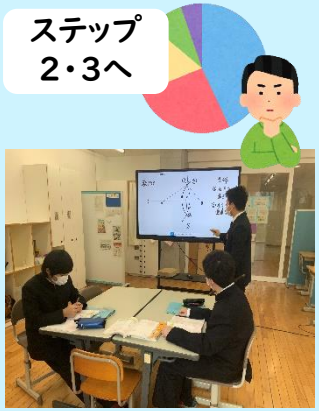
学習環境の整備

・特別支援学級を対象に，児童生徒が安心して学習に取り組むことができるよう，構造化（物理的な構造化）の視点を取り入れた環境整備を実施。



構造化の視点を取り入れた授業改善

- 構造化(物理的な構造化，時間の構造化，活動の構造化，一連の流れの構造化，課題の構造化)の視点を取り入れた授業の実践。



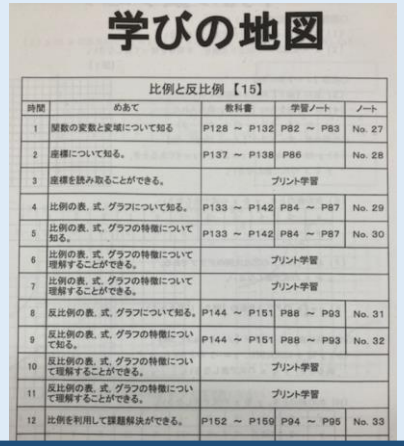
個別の指導計画等を効果的に活用した授業改善

- 校内での個別の指導計画等の活用について，アンケートを実施し，課題を整理した。
- ステップ1での取組を校内で共有し，学校全体で特別支援教育の視点を踏まえた授業づくりを進めていく。

世羅町立世羅中学校

学校全体で取り組む
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創造

数学科の授業参観・協議（子供の姿・自分の教科でできることを対話）

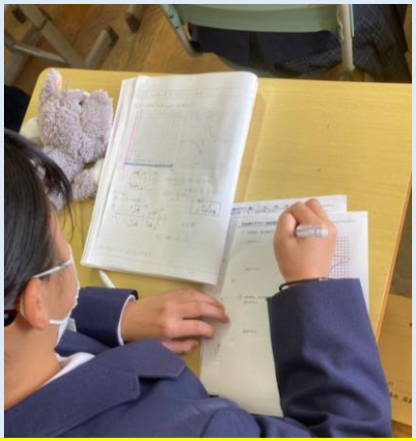


学びの地図

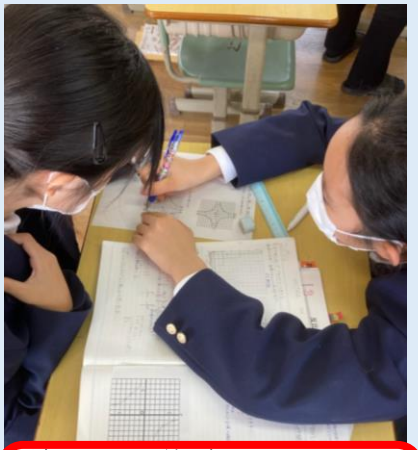
比例と反比例【15】

時間	めあて	教科書	学習ノート	ノート
1	関数の変数と変域について知る	P128 ～ P132	P82 ～ P83	No. 27
2	座標について知る。	P137 ～ P138	P86	No. 28
3	座標を読み取ることができる。	プリント学習		
4	比例の表、式、グラフについて知る。	P133 ～ P142	P84 ～ P87	No. 29
5	比例の表、式、グラフの特徴について知る。	P133 ～ P142	P84 ～ P87	No. 30
6	比例の表、式、グラフの特徴について理解することができる。	プリント学習		
7	比例の表、式、グラフの特徴について理解することができる。	プリント学習		
8	反比例の表、式、グラフについて知る。	P144 ～ P151	P88 ～ P93	No. 31
9	反比例の表、式、グラフの特徴について知る。	P144 ～ P151	P88 ～ P93	No. 32
10	反比例の表、式、グラフの特徴について理解することができる。	プリント学習		
11	反比例の表、式、グラフの特徴について理解することができる。	プリント学習		
12	比例を利用して課題解決ができる。	P152 ～ P159	P94 ～ P95	No. 33

学びの地図
単元計画を子供にも配布し共有する。何を学ぶのかを知り，何を使って学ぶのか子供が決める。



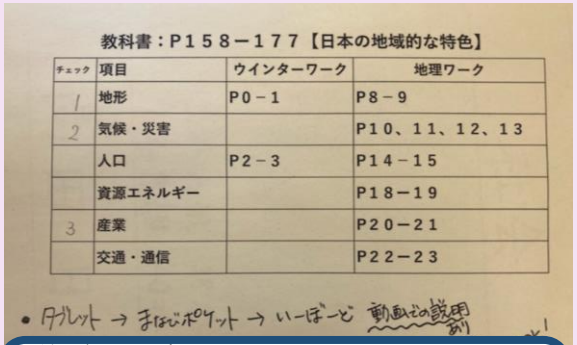
個別最適な学び
学びの地図を見て学習計画を立て，教科書をもとにして学習を進めたり（左の写真），ノートをもとにして学習を進めたり（右の写真）して自分に合った方法で個別に学習を進めている。



協働的な学び
分からない問題と出合った時，困っている友達がいた時，自然と協働的に学ぶ姿が見られた。

キーワード　選択肢と自己決定

全教科で実践（各教科でできることを実践）

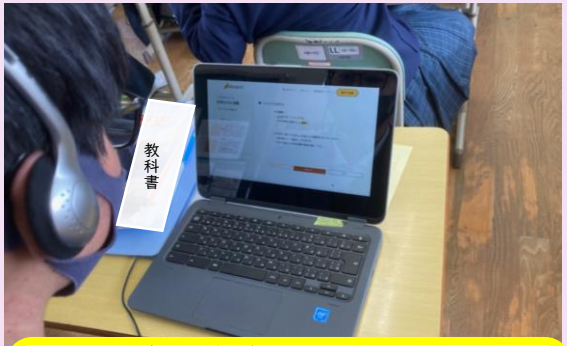


教科書：P158－177【日本の地域的な特色】

チェック	項目	ウインターワーク	地理ワーク
1	地形	P0－1	P8－9
2	気候・災害		P10、11、12、13
	人口	P2－3	P14－15
	資源エネルギー		P18－19
3	産業		P20－21
	交通・通信		P22－23

• タブレット → まなびポケット → いーぼーど 動画での説明あり

学びの優先順位
プレテストを実施し，自分の得意と苦手を知り，この時間何を学ぶのか自分で優先順位を決めて学びを進める。



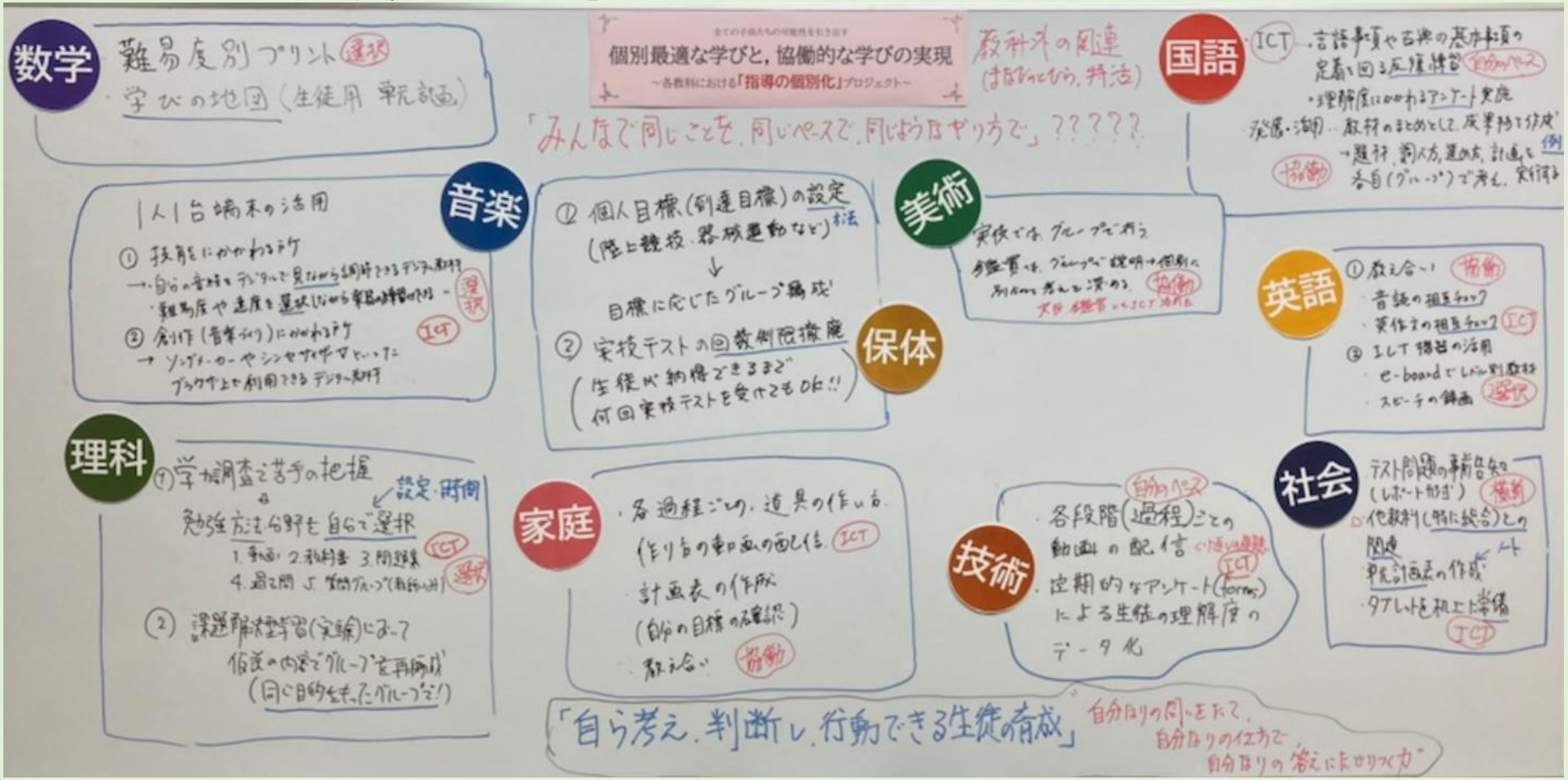
個別最適な学び
ワークやプリント，教科書だけでなく，ICTも活用。自分に合った教材や学び方を選んで学習を進めている。

協働的な学び
困っている友達に教えることで理解が深まるだけでなく，伝え方についても学んでいる。多様な資質能力の向上につながっている。

世羅町立世羅中学校

学校全体で取り組む 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な創造

各教科における「指導の個別化」プロジェクト



キーワード　対話

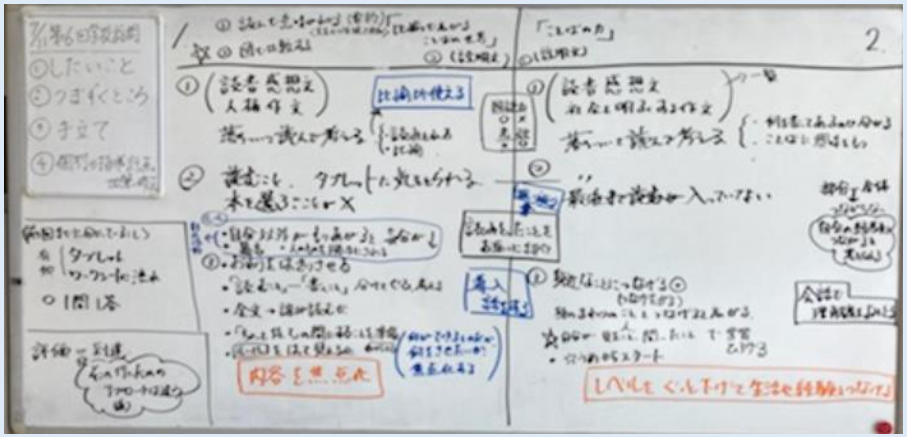
教職員による対話の充実

2学期の実践をもとに各教科における指導の個別化の充実を図るためにすることを校長室ホワイトボードに記入。ここでのキーワードは，「対話」。各教科の先生で集まり対話し，校長室でさらに対話をして深める。対話を繰り返すことで，技能教科では，ICTによる手立てが有効であることやそのことをヒントにその他の教科でのICTの有効的な使い方を検討するなど，教科の枠を超えて指導の個別化について対話を続けている。

神石高原町立神石高原中学校

チーム学校で取り組む！
授業のユニバーサルデザイン化モデルを取り入れた授業改善

チームで教材研究



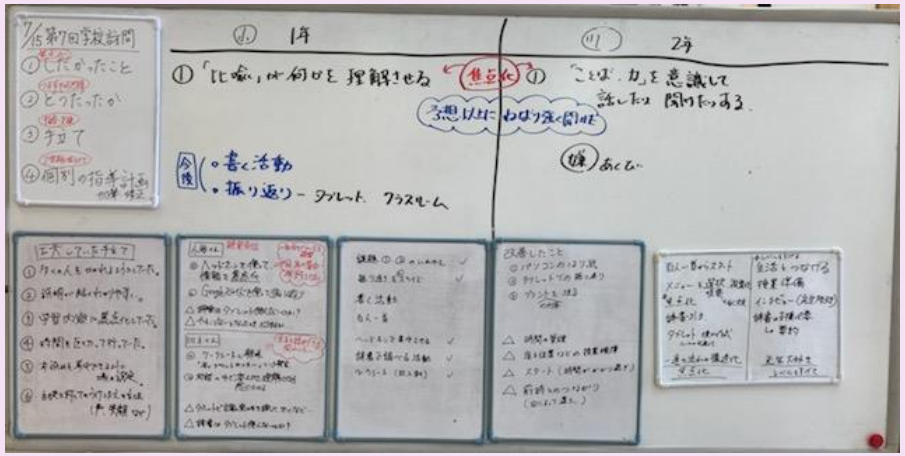
教材研究

教科の枠を超えてチームで教材研究を行ってきた。これまでは，他の教科の授業を参観したり，一緒に教材研究をしたりする機会がなかった。授業のユニバーサルデザインの視点で教材研究をすることで教科の枠を超えた取組が実現！

チームで授業参観

年間を通して計画的に取り組むことで，全ての教科で実践できた。

チームで事後協議



事後協議

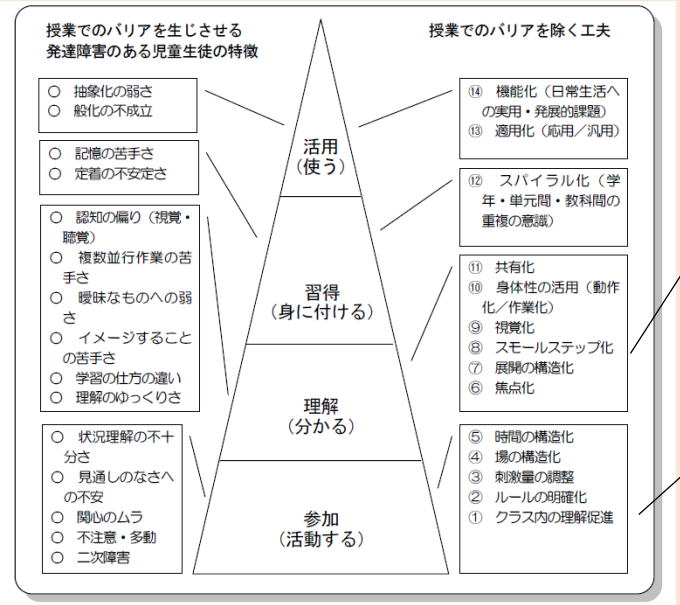
事後の協議もチームで行っている。「有効であった手立て」と「こんな手立てがあったらよかった」の2つの視点で手立てを考える。

ここで考えたことを自分の教科にも汎用させていくことで，各教科における授業改善を進めている。

神石高原町立神石高原中学校

チーム学校で取り組む！
授業のユニバーサルデザインの考え方を踏まえた授業改善

授業のユニバーサルデザイン化モデル



有効だった手立て

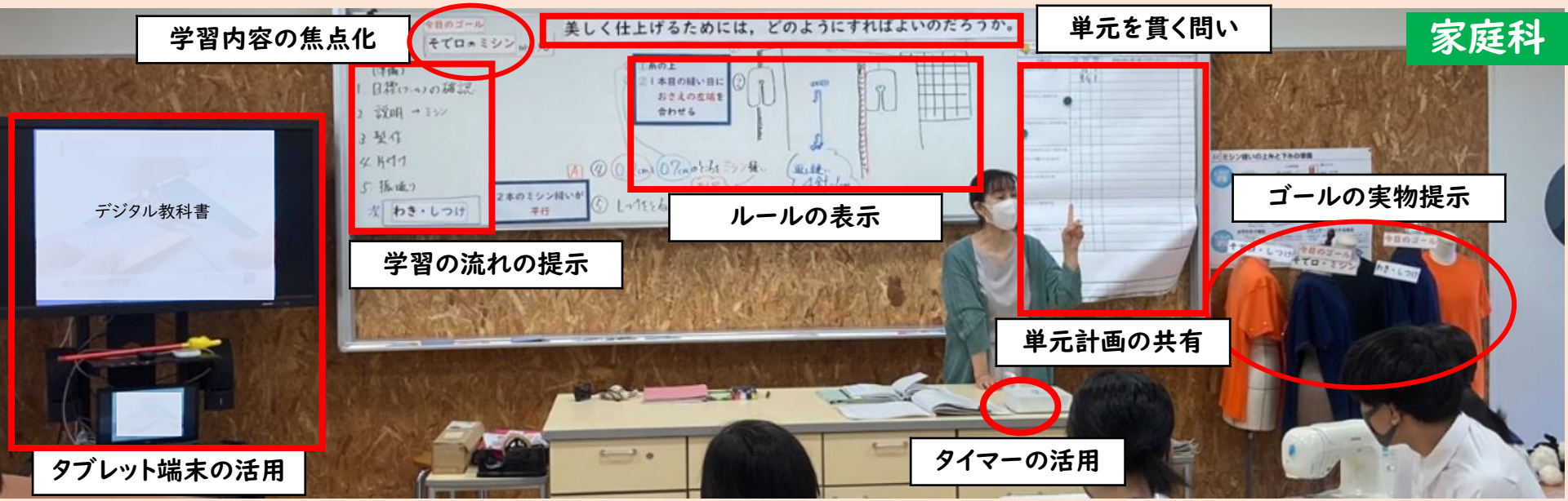
- 学習内容や順番の選択
- 学習内容の焦点化
- 学習カードの活用
- 選択肢と自己決定
- 単元計画の提示
- 作業する教材を用意

- タイマーの活用
- タブレット端末の活用
- ゲーム的要素
- 教師とのやり取り
- 空欄補充
- ルールの表示
- ロッカーなどの色分け
- 学習の流れの提示

授業改善について

授業を「参加」「理解」「習得」「活用」の4階層で捉え，学力の優劣や発達障害の有無等を問わず，全ての児童生徒が楽しく学び合い「わかる・できる」ように，工夫・配慮された授業改善を目指す授業のユニバーサルデザインの考え方を踏まえて授業改善を進めている。

１学期は自閉症・情緒障害特別支援学級で実践を重ね，２学期からは有効であった手立てを通常学級での授業に取り入れることで授業に主体的に「参加」できる生徒が増えてきたり，学習内容への「理解」が深まってきたりするなどの手応えを実感している。

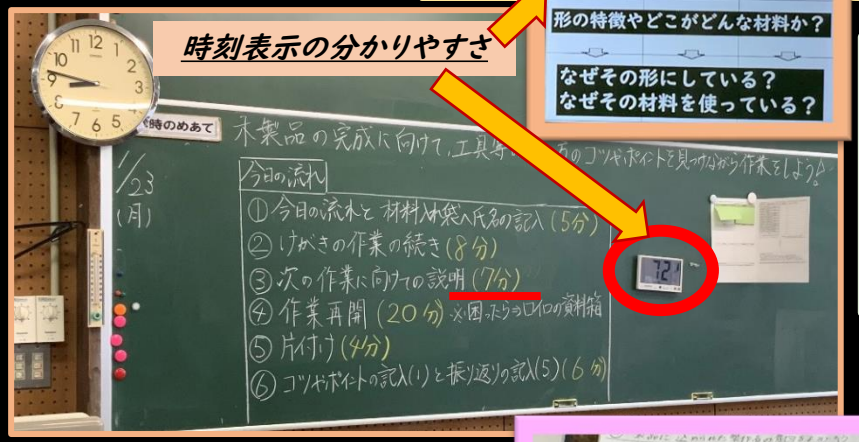


三次市立十日市中学校

Step１☆特別支援教育の考え方に基づいた授業づくり

持ち物等の置き場所の明示

時刻表示の分かりやすさ



実物，絵，写真，表及びグラフ等のイメージしやすい教材の提示

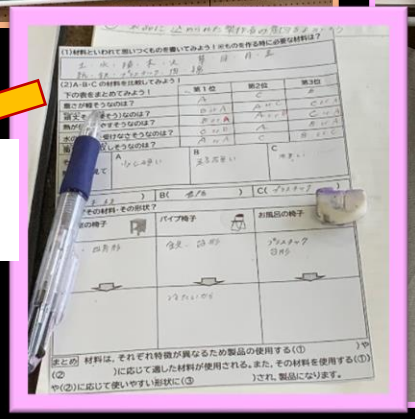
授業の流れ，１日のスケジュール等の見通しのもてる工夫

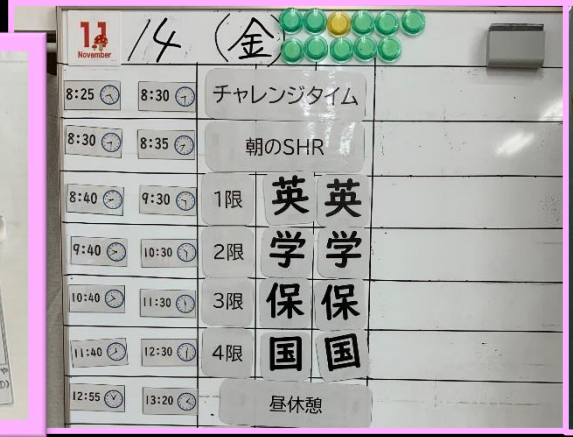
めあて

（１）
（２）
（３）

まとめ

めあてからまとめまでの
“本時の学習内容”を
一枚のプリントで示す





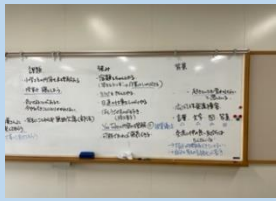
庄原市立庄原中学校

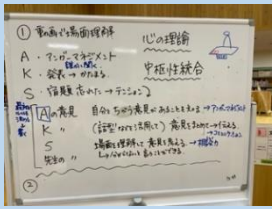
<プロジェクト目標>
A 生徒のニーズの把握 個別の目標の確認
B 一人一人のニーズに対応した授業の企画
C 発達障害理解
D 校内での共通理解

<授業見学➡協議>
①ゴールの確認
②良かったこと・課題整理
③背景整理
④今後の手立て

1学期・・特3学級への支援

例）自立活動（特3学級）



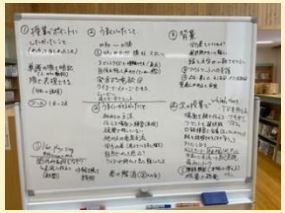


①本日のゴール：イラっとした時の対応方法について知る
②良かった点：動画での説明
課題のあった点：動画の量と内容
③背景整理：3人の課題
Aさん アンガーマネジメント
Bさん 発表などのアウトプット活動
Cさん 状況理解と援助希求
④今後に向けて：発達障害理解 障害特性から支援の方法を具体的に検討 3人の強みの整理→活動に活用
ICT等の活用による合理的配慮の検討

2学期・・特3学級の授業への支援

例）英語（特3学級）

①本日のゴール：人・who・動詞の順番で単語を並べることができ，自分のことについて1～2文の作文ができる。
②良かった点
➡視覚的な教材の提示 スモールステップでの導入 身近な題材の活用 クイズ（ゲーム的な活動）の活用
課題のあった点
➡発表や意見交流が少ない 文法用語を使っての説明 得意な生徒の先の課題 苦手な生徒への手立て
③背景整理：学力差のある集団 コミュニケーションへの支援が必要な生徒 英語が苦手な生徒が援助を求めることができていない
④今後の手立て
●板書を有効に活用 ➡ 苦手な生徒には問題数を絞る・知っている単語を活用する 1時間の見通しの提示（ホワイトボードの活用）
●援助希求のスキル ➡どんな時に（分からない・困っている場面の確認）誰に（担当の先生・支援員さん）どう伝えるか（サイン・言葉）本人と確認→すべての授業で実施（職員の共通理解）



3学期・・交流・特2学級への支援

例）美術（3年生）

①本日のゴール：
「庄原のご当地キャラを作ろう！」
②良かった点
→ご当地キャラクターの役割や作る上での注意点など理解して2人とも作成できたこと

例）自立活動（1年生）➡2月訪問

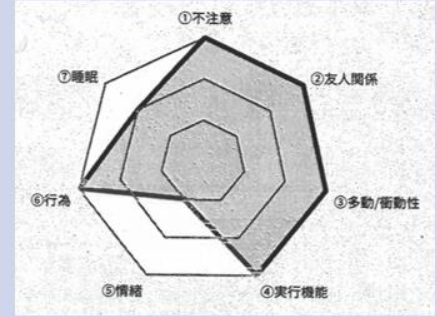
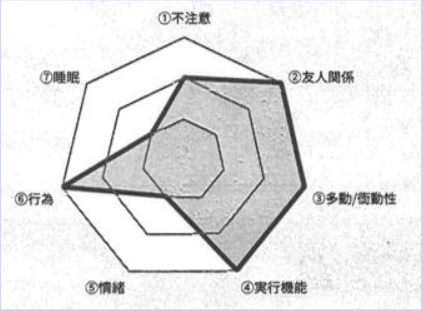
「自分のことについて答えよう」
自分の事について表現する

➡支援計画や日頃の関わりの中で先生が見取っている課題を洗い出す
➡3人それぞれの目標を活動の中で達成できるよう授業を計画する

福山市立加茂中学校　特別支援教育の視点で授業改善！

A

Assessment（実態把握）
（株）LITALICOの「まなびプラン」を活用して，生徒実態を把握し，生徒一人一人の教育的ニーズの整理。

生徒A	生徒B
	

P

Plan（計画）
教育的ニーズを踏まえ，「本時のしたいこと（目標の焦点化）」，「つまずきの予想」，「手立て」を教科の枠を超えてチームで検討。

D

Do（実施）
授業計画等を基に，授業を実施。
毎月2回，複数教科で授業を実施し，お互いの授業を見合う。

毎回の訪問で①授業計画立案→②授業→③授業評価
1～3のどのステップにも取り組み，学校全体で
特別支援教育の視点を踏まえた授業改善を図る。

国語

英語

社会

音楽

ステップ1　ステップ2　ステップ3

福山市立加茂中学校　特別支援教育の視点で授業改善！

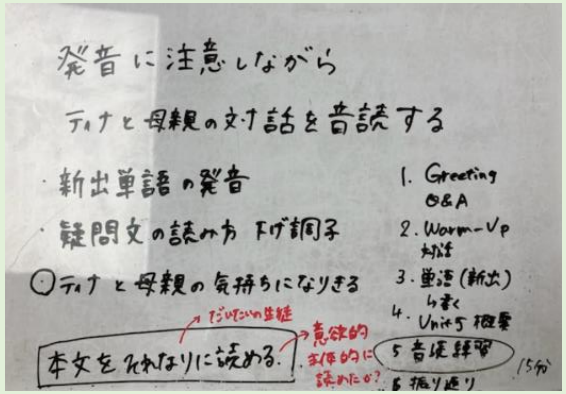
C

Check（評価）
「本時の目標」,「つまずき」,「手立て」を視点に事前に検討した授業計画を基に授業の評価を行う。どのような手立てが有効だったのか，またどのような手立てがあればよかったかのなど，次時以降につなげることを意識した評価を行っている。

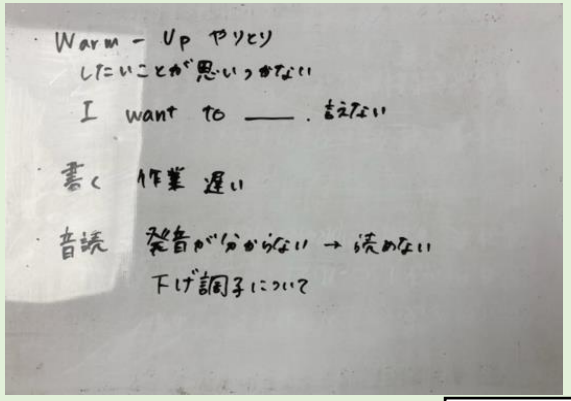
A

Action（改善）
評価したことを受けて，実態把握の再検討をするとともに，特性に応じた手立てを取り入れた授業を日々実施している。

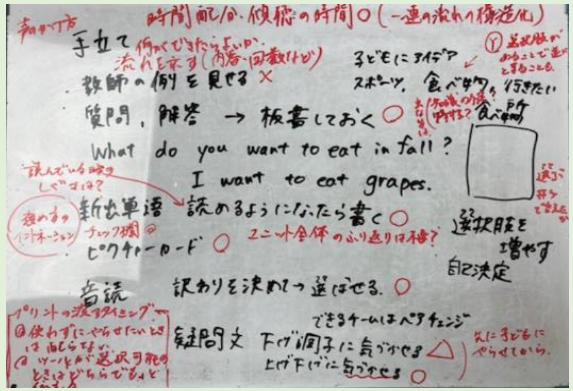
本時の目標



つまずきの予想

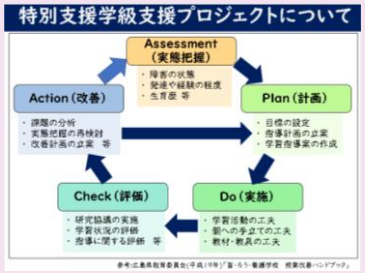
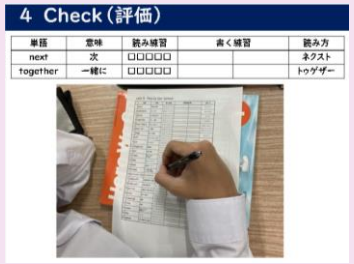
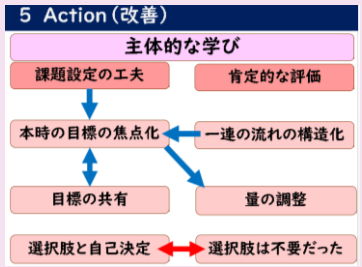


手立て



※ホワイトボード　黒字：授業計画　　赤字：授業評価

小学校との緩やかな接続

中学校区での合同研修
研修「特別支援教育の視点を踏まえた授業改善」を中学校区で実施。（株）LITALICOによる実態把握に関する研修，本校の英語の授業の取組紹介を行い，実際に指導計画を作成した。

小学校の授業参観と事後交流
県教育委員会の指導主事と中学校の特別支援教育Coが小学校の授業を参観し，気になる子について小学校の先生と意見を交流した。